

第1回 学校関係者評価委員会

1 実施日 令和4年9月2日(金) 午後4時～5時30分

2 会場 図書室

3 参加者 学校関係者評価委員 小野 和明(教育振興会会長) 平林 勳(教育振興会副会長)  
志村 勇(教育振興会副会長) 戸澤 聡 (教育関係有識者)  
清水 悟(百々育成会会長) 竹山真由美(主任児童委員)  
清水 智文(保護者代表・PTA会長 学校関係者評価委員長)  
高部 英美 (保護者代表・PTA副会長)  
学校側 望月 政幸 (校長) 矢崎 健 (教頭)  
福井 初美 (教務主任) 今村 里佳 (生徒指導主任)

4 学校側から提案された内容

- (1) 教職員自己評価(教務主任)
- (2) 児童アンケート(生徒指導主任)
- (3) 保護者アンケート(教頭)についての解説や考察

5 協議された主な内容

※○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 教職員自己評価について

○ 最近の報道などから教職員の職務上の負担が大きいことが知れ渡ってきた。そのことを踏まえ、教職員自己評価書を見ると、評価する項目が多すぎはしないか。これらの項目を全て覚えているのか。また、その内容を守ってやり切れているのか。縮小してもいいのではないか。

☆ 教職員の自己評価の項目はほぼ全て学校に求められていることである。御指摘のとおり項目数は多いかもしれないが、以前よりは大幅減ってきている。全ての項目のことについて取り組んでいかななくてはならないが、その中でも児童の実態や時代、社会の要請等から年度ごとに重点を置いて取り組むことを決めている。全てに対して同じような力の入れ方をしていないわけではない。

○ 自己評価から、これだけのことをしていることが分かり、それだけでも素晴らしいと思ったが、それなりの評価ができてきていることがさらに素晴らしいことだと思う。その中で項目によっては「C評価」を付けた教職員が1人であるにもかかわらず改善策が多いのではないだろうか。

☆ 校長として職員には常々自分のやっていることには自信を持つように言っているし、その結果としての評価も自信をもってつけるように言っている。全ての項目でA評価になることは難しい。Aがつかないところは不足のところ、自信のないところなのだろう。全ての人がAを目指せるように改善策を示している。

(2) 子供の生活について

○ 保護者アンケートからは、あいさつをはじめ子供の生活についておおよそ良好との結果が出ている。保護者の指導も大きいだろうが、学校への依存もあると思う。特にあいさつについては誘拐等につなが

るから、するなという時代もあった。そのような中であいさつも活発にできるようにしていかななくてはならない。

☆ 学校内では児童のあいさつはあまりできていないという反省をしているが、保護者はよくできているという評価を出している。学校内でもしっかりあいさつができるよう児童会を中心に取り組んでいくし、保護者、地域と連携しあいさつができるように取り組んでいきたい。

○ 携帯電話・スマホについて、ルールを作っていない家庭が3割あることが分かる。買うのが親で、使うのが子供、指導は学校という構図になっていて、中学校でもトラブルがあった。本校の様子を教えてください。

☆ 携帯・スマホによるトラブルは意外に少なかった。気になるのは全国学力学習状況調査の結果の中で動画を視聴したりゲームをしたりする時間が増えていることであった。また、児童アンケートのNo1とNo10、11の結果が昨年度より若干低下している。学校が楽しいと感じていない児童、あるいは友達との関わりがうまくできていないと感じている児童が増えている。コロナ禍の中、様々な行事や行動が制限されそう感じるのもやむを得ないと思われる。地域や御家庭での様子を教えてください。

○ 地域においては、コロナの蔓延を心配するあまり多くの行事等中止せざるを得ない。以前より子供たちの姿を地域の中で見ることは少なかったが、コロナ蔓延後はさらに登下校以外姿を見ることはなくなった。

家庭内においては、家の中で遊ぶことが上手になってしまって、宿題をした後はゲーム、YouTubeが中心になっている。スポ少に加入している子はそのような時間は割と少なくなるが、スポ少のないときにはゲーム等の時間が長くなるのは事実である。

このような中、地域ではコロナの影響とばかりは言えないと思うが、住民同士のつながりが希薄になっているように感じる。そのため、子供たちにとっていい環境を作るのが難しくなっている。

☆ コロナの影響で学校内においても友達同士の関わる機会が減り薄くなっている。また、そのため学校が楽しいと感じない児童が増えている。学校ではできる範囲で授業や行事で関わりが持て楽しいと感じられるような工夫をしていきたい。

## 6 まとめ

- (1) コロナ禍、児童の人間関係作りや楽しい学校づくりが課題として取り上げられた。感染症蔓延防止のため様々な制限があり、友達との接し方にも気を使い、授業や行事などの持ち方にも苦慮するような状態では、学校が楽しいと感じる児童の割合は低下するのはやむを得ないかもしれない。このような中、できることをできる範囲で工夫して行い、より楽しいと思える学校づくりに取り組んでいきたい。
- (2) (1)に関わって、保護者のアンケートからは、基礎基本の徹底やつまずきなどへの指導を望んでいることが分かる。学習がきちんとできてこそ学校は楽しいところとなるだろう。そのためにも校内研究会を通して授業改善や指導力の向上に努めていきたい。2学期は研究を充実させるときでもあるので、学力向上を目標に日々の実践に取り組んでいきたい。
- (3) 自己評価の項目数から、教職員の負担の大きさが話題に上った。普段の仕事においても優先順位をつけたり軽重をつけたりしながら、働き方改革を押し進めていかななくてはならない。
- (4) 今回の学校評価でも、概ね良い評価がされている。このことは、本校の教育活動が安定して行われていると考えることができる。しかし、学校関係者評価委員会の中でも説明したが、低い評価の項目については検討し重点的に取り組んでいきたい。

